

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1193200183		
法人名	社会福祉法人 晃樹会		
事業所名	らんざん苑グループホーム		
所在地	埼玉県比企郡嵐山町越畑1330		
自己評価作成日	令和 3年 12月 25日	評価結果市町村受理日	令和 4年 3月 28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル1階
訪問調査日	令和 4年 2月 17日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

ご利用者の居住空間は1階に限定しており、災害時の避難を迅速に行うことができる。建物自体も地震、火災に強い鉄骨造りになっている。同法人の介護老人福祉施設の看護師と連携することで医療面も手厚くできている。見晴らしの良いテラスで景色を眺めたり、歌を唄う時間をご利用者に好評いただいている。  
福祉教育の一貫として、地域包括支援センターと同行し、町内の小中学校にて認知症サポーターの講師を務めている。また、全国的に広がっているオレンジガーデニングプロジェクトに参加し、認知症になっても安心して暮らせる町、施設にしていくためにできることを考え実践している。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

自然に恵まれた静かな環境のもと、利用者は家庭的な雰囲気の中で穏やかに生活している。職員同士は仲が良く、法人内の人事異動以外の職員の入れ替わりはない。地域との交流も密で近隣の人々に気軽に立ち寄ってもらい、避難訓練にも参加してもらっている。事業所独自の理念である「私たちはその人らしさを大切に、ともに笑い、ともに楽しみ、ともに悲しむことを実現します」をもとに利用者本位のケアを実践している。認知症啓発カラーのオレンジ色を用いたプロジェクトに賛同し、事業所ではオレンジ色の花を育て、利用者にもオレンジ色の折り紙で花を作ってもらっている。家族懇談会には利用者家族全員が出席し、活発に意見を出し合い、事業所の運営に協力している様子うかがえる。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼で毎日理念を発声することで常に意識して共有している。	職員はカンファレンス時に「その人らしさを大切に」の理念を念頭に話し合いをしている。日々のケアの中で判断に迷った時には理念に立ち返り、利用者一人ひとりに寄り添ったケアに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在はコロナウイルスの影響でご家族以外の面会は中止しているが、本来は散歩中に野菜をいただいたり、民生委員の方の訪問もあった。	自治会に加入し、コロナ禍以前は散歩中に近隣の方から野菜やお菓子をもらうこともあった。傾聴や時代劇、オカリナ演奏のボランティアを受け入れ、中学生や大学生の職場体験も受け入れていた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護の相談は随時受け付けている。地域包括支援センターからの依頼で認知症サポーターの講師も務めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度はコロナウイルスの影響で開催していないが、本来は2ヶ月毎にご利用者、ご家族、地域包括、役場、区長、法人代表、管理者の参加で開催している。	以前は地域包括支援センターと役所の代表、家族の出席を得て開催していた。事業所からは現状を報告し、家族からは行事についての提案をもらい、事業所の運営に活かしていた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	認知症サポーターの依頼があれば受けている。今年度は町内の小中学校に訪問した。オレンジガーデニングプロジェクトについても連携して取り組んでいる。	役所の窓口へは書類提出や利用者の状況報告に出向き、顔なじみになっている。以前、利用者はお祭りに参加したり花火大会を見学したりと町が主催する行事を楽しんでいた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年間計画で研修を行っている。身体拘束はもちろん言葉での拘束や過剰な服薬も行わず、人的ケアを心掛けている。	2か月に一度、身体拘束防止委員会を開催し、身体拘束をしない介護について認識し、共有している。スピーチロックについては職員同士で注意し合い、ドラッグロックについては薬に頼らないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間計画で研修を行っている。職員同士で虐待のないよう相互確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在該当者はいないが、施設内研修等で学ぶ機会は設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にご本人と身元引受人に十分な説明を行い、納得の上で、署名、捺印をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今年度は行っていないが、ご家族との懇談会の機会を設け、ご意見、ご提案をいただいで運営に反映させている。それ以外にも要望があれば、来苑、電話で相談を受けている。	コロナ禍以前は家族懇談会を開催し、全家族18名の出席を得て活発な意見をもらっていた。始めは家族だけで話し合ってもらい、忌憚のない意見を聞いて事業所の運営に反映させていた。再開予定である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月会議を設け、職員全員からの意見をまとめて、理念に沿った考え方で改善について話し合っている。また随時必要なことは管理者に相談できるよう環境作りに努めている。	会議では職員の意見をもとに、利用者に喜んでもらえるような提案について話し合われている。外食、ケーキ店、いちご狩り等行きたいところ、野菜畑に何を植えるかなど様々な意見が出ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各ユニットに常勤職員を3名以上配置している。定期昇給、賞与、処遇改善費を支給している。福利厚生でクラブ活動に助成金を支給することで、ストレス緩和を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJTの他に外部研修の参加を推進している。今年度は2名が認知症介護実践者研修を受講した。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターが開催する会議にて地域の課題や認知症ケアの普及等について話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所相談時、本人、家族の面談を行い、趣味、生活歴等を聴き、生きがいや趣味を継続していけるよう話し合っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所相談時、困っていること、不安なことをじっくりと伺い、一緒に考え、今後も相談しやすい関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	町内、法人内のサービスについても説明し、現在の状況で、ご利用者にどのようなサービスが必要かグループホーム入所が適切なのか一緒に考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に掃除、洗濯をしたり、時には調理補助をお願いしたりと、共同作業の楽しさを感じていただきながら過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナウイルス感染拡大時はガラス越しの面会、感染が落ち着いた際には、制限付きで居室での面会を行っている。受診については時には家族にお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染リスクを考えながら、馴染みの場所へも少しずつ出かけている。制限付きで面会も行っている。	以前は家族、友人の来訪が多く、居室でゆっくり談笑していた。現在は玄関でガラス越しの面会をしている。家族と自宅や外食、墓参に行く人もいた。趣味の編物や卓球を続けている人もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共通の趣味や話題をみつけるお手伝いをさせてもらい、ユニット内が仲良く温かい雰囲気になるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人内他事業所に移られた方でもこれまでの関係を大切にし、必要であれば相談、支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話から思いや意向を把握している。	職員は利用者の生活歴や趣味嗜好を共有している。花が好きで詳しい方人には花壇作りの相談をしたり、言葉が困難な人の笑顔から好きなことを読み取ったりと一人ひとりの思いを大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの経過は、本人、家族、ケアマネから詳しくきいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月のモニタリングにて心身状態、新たなニーズ等の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、職員、主治医の連絡、相談により現状に即したケアプランを作成している。	長期6か月、短期3か月の見直しだが、変化があればその都度見直しをしている。カンファレンスで目標達成度合いを確認し、必要に応じて医師、看護師の意見を聞き介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	タブレットでの個人記録を基本とし、気づきや改善点については連絡ノートや会議録にて全員で情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	それぞれのニーズ、時々々のニーズに合わせて、既存のサービスに捉われず、支援内容を柔軟に考え実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問理容、訪問歯科を活用している。コロナウイルスが落ち着けば傾聴ボランティアの再開も考えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医による訪問診療あり。受診はご家族と協力しながら支援している。	月1回、内科の訪問診療がある。歯科は希望者のみ訪問診療を受けている。週2回、訪問看護師が来訪し健康管理をしている。他科受診は職員が同行している。24時間看護師に連絡可能である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は日常の気づき、変化を看護職に伝え、適切な医療を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、病院スタッフと連絡をとって状況確認をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に終末をどう望んでいるかを本人、家族と話し合っている。その後も状態によりその都度意思確認を行っている。	入居時に事業所の指針を説明している。状態に変化があった時には主治医、家族と話し合い、利用者にとって最善の方針を決めている。重度化したら併設の特養で手厚い介護を受けるケースが多い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応、連絡体制、AEDの使用方法について訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練にて、初期消火訓練、通報訓練、避難訓練を行っている。	年2回、消防署立会いのもと、地域の人々の協力も得て特養と合同で訓練を実施していた。250名分の飲料水や食料の3日分を備蓄している。非常食を使用した炊き出し訓練もおこなっていた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに十分配慮した声掛けや対応を心掛けている。本人の情報は事務所内でのみ使用し、ご利用者の共用スペースでは必要以外は口にしない。	個人ファイルは鍵付きのロッカーに保管し、パソコン内の情報は厳重に管理している。研修にて利用者情報の保護を徹底している。トイレ誘導時や入浴時には羞恥心に配慮し、同性介助をしている。	職員同士の会話の中では利用者の名前をイニシャルで表し、他の利用者からも個人が特定されないように配慮することを今以上に徹底していく方針に期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が意思や希望を話しやすい環境作りに努めている。重度の認知症の方にも、同じように自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合に関わらず、ご利用者の意思、気分、決定を大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類はなるべくご家族に用意していただき、その人らしいおしゃれができるようにしている。行事の時にはお化粧のお手伝いをするので、とても喜ばれている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員による手料理を召し上がっていただき、好評をいただいております。季節ごとの行事食も楽しみとなっている。食器拭きやテーブル拭きをと利用者に手伝っていただいている。	コロナ禍以前は外食で和食、中華、ケーキの食べ放題に出かけていた。行事食としておせち調理やクリスマスの食事を楽しんでもらっている。誕生会には一緒にパンケーキやおやつ作りをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分1日1000ccを目安にしている。食事形態、食事量は個人ごとに設定している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きをしている。口腔内に異常があった場合には訪問歯科、またはなじみの歯医者に診ていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録はタブレットに入力してデータ化し、最適な時間に誘導している。プライバシーには十分配慮して誘導している。	トイレへの声掛けは小声でおこなっている。食後は席からではなく、歯磨き後の流れでトイレに誘う工夫をしている。病院退院後、離床や立位がとれる人にはオムツからリハビリパンツに戻す支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給と体操でできるかぎり自己排便できるように支援している。主治医やご家族と相談し、ごぼう茶、せんな茶、下剤等も必要に応じて用いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を基本としているが、希望に応じて変更可能。フロアに貼りだした入浴表をみて自身で入浴準備を行ってもらっている。	家族の希望で週3回入浴希望の人にはケアプランに入れて対応している。入浴嫌いな人にも工夫して入浴してもらい「ありがとうね」と言われている。入浴剤を使用して気分転換をもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は決まっているが、本人の意思を尊重しており、起きていたい方、余暇活動を希望する方は自由に過ごしてもらっている。本人の眠気や浮腫等をみて、昼寝の時間も柔軟に作っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員による3重のチェックにより誤薬を防いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	残存機能や生活歴を活かした趣味を楽しんでいただいている。ハーモニカを趣味とされる利用者による演奏会が最近好評であった。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	馴染みの場所やお花見スポットにドライブに出かけている。今年度は「白鳥がみたい」の希望に応え、白鳥飛来地に出かけた。	体調と天候をみて、ほぼ毎日事業所のまわりや近くの神社へ散歩に行っている。桜並木の土手やコスモス畑では季節を感じてもらっている。家族との外出のほかに、個別支援としてなじみの店や自宅へ車で同行することもある。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所でお小遣いをお預かりしている。医療費、おむつ代、本人が買いたいものを使用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話や手紙は自由にできるように支援している。コロナ禍では手紙のやりとりが増え、写真とともに直筆の手紙を送ることは、ご家族にとっても喜ばれた。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節、行事ごとの飾り付けを行い、生活の彩りとなっている。眺めの良いテラスが好評。	南向きの明るいリビングで温度、湿度、換気に配慮している。日中は暖かく広いリビングで和やかに過ごす利用者が多い。リビングの一角にあるキッチンからは食事を準備する気配が感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール(居間)においてソファで語らったり、テラスに出て一人気分転換をしたりと自由に過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員、ご本人と協力して掃除をしている。テレビ、写真、ラジオ、仏壇等、自由に持ち込んでいただいている。	ベッド、エアコン、クローゼット、照明が備品で、室内に濡れタオルをかけて加湿をしている。好きなぬいぐるみや家族の写真を飾り、居心地よく生活している。居室の掃除を職員と一緒にいる人もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室や共用部分の掃除、調理補助等、できることを行ってもらうことで「自立した生活」を意識してもらえるようにしている。		